

平成29年 1月の思いやり通信



自然の力を取り入れた省エネ住宅

・現状、日本の家の多くは驚くほど断熱性が低いレベルです。

・冬寒い家はエアコンを掛けると益々寒くなります。

空気は暖められると上昇するので、あったかい空気が天井から吹き抜けます。すると、室内外の気圧が変化し、それに伴い対流が起こり、冷たい外気が隙間風となって家の中にスースーと入ってくるのです。

・パッシブデザインの家は、太陽の光や熱、流れる風の力を受け入れて利用し、そのエネルギーを住まいの性能として役立てます。

人工的な設備に頼らずに、自然の力をそのまま受動的に取り入れて快適な室内環境を作ろうとするものです。

壁や床の断熱性を高めて高气密の家にすることを重視し、窓の配置などを考慮して、痛風と採光を工夫します。

夏は熱と光を遮り、風通しを良くし、冬は光と熱をできるだけ取り入れます。

年間を通して部屋の中の温度が一定です。

・暖かく快適な家に住むことによって、様々な病気を未然に防ぎ、平均で年間1人当たり2万円の医療費が削減できるという研究データも発表されています。

・パッシブデザインの家はヨーロッパではスタンダードですが、日本における普及率は0.1%です。

・2020年には、「省エネルギー基準」が今後新しく建てられるすべての住宅で遵守することが義務付けられます。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より抜粋)

